

本音インタビュー

大学生の就職支援会社社長

松本 保美氏

新卒者の就職 戦線たけなわ

大学生の就職活動の早期化に伴い、2011年春卒業予定者向けの就職戦線がたけなわを迎えている。景気底打ち後も先行き不透明感は払しょくされず、企業側の新卒採用を抑制する傾向は今年も続きそうだ。厳しい就職戦線を、学生はどのような心構えで臨むべきなのか。

—今年の就職事情をどう見ますか。
—昨年同様、厳選採用が続



まつもと・やすみ氏 銀行や商社などで人事部門を経験した後、静岡産業大情報学部で就職指導を担当した。静岡市に就職支援会社「ジョブエール」を設立。岐阜県出身、46歳。

自分らしさ追求で挑め

くと予測する。企業側は人物や能力をより慎重に評価しようとする傾向が強くなっている。全国主要企業の11年採用計画は『まだ計画が決まっていない』との回答が約4割で、今後の景気動向によって、採用数が増減が出る可能性がある。良い人材がいなければ採用を見送るなど、計画数に満たなくても採用活動を終了するケースもあるだろう。

—最近の学生について、感じる点は何ですか。
「面接で、自分を変幻自在に企業に合わせて受け答えする学生が目立つ。求められる人材像を自ら作り出して応対し、器用でそつがないように見えるが、個性は感じない。また、ホームページを見れば企業の良しあしを判断する学生も増えてきた。ネットを使いこなし就職活動をした気になり、会社の人に直接会って話を聞く姿勢がなかなか見られない。このような学生は志望動機はきれい

「10年度の新卒求人倍率は約1.6倍だった。慢性的な労働者不足が続く介護、福祉業界の求人倍率が高いのに対し、輸出関連は1倍を切るなど業界、業種ごとに格差があるのが現状だ。景気が悪いから就職が厳しいとは言えず、えり好みしなければ就職できる計算だ。新卒採用を行う余裕がない業界もある一方で、優秀な若い人材を取りたい企業側は、新卒にこだわらない企業も多い。キャリアのある優秀な若い人材の方が即戦力としてみるので、『新卒だから採用してくれ』という甘い考えは捨てるべきだ」

—学生はどんなことを心掛ければ良いのでしょうか。
「採用で重視するポイントとしてはコミュニケーション能力と行動力、人柄。先行き不透明な時代、チャレンジ精神やリーダーシップ、忍耐力があるかを見極めようとしている。従って、付け焼き刃的、マニュアル通りの応対では通用しない。就職活動こそが自己鍛錬の場。真剣に自分を見つめ直し、どのように動くことが最も自分らしいかを追求してほしい。また、自分一人で悩まず、切磋琢磨できる仲間と客観的に指導してくれる人の力も必要だ」

（聞き手＝経済部・萩原正司）

OPINION